令和６年（２０２４年）９月号④

学校通信

和の光

宝塚市立西谷中学校

あわてなさんな

校長　筒井　啓介

　親子の関わり方に限りませんが、人間同士の関係は一瞬一瞬が大切だと思う時があります。例えば、子どもが親に褒めてもらおうと思って「数学のテストで８０点とったよ」と答案用紙を見せたとします。しかし、「ここができていたら９０点だったのに、残念だったね」とか、励まして欲しい時に「テニスの大会一回戦で負けちゃった」と言ったのに、「普段の練習が足りないのよ」と言われることはよくあることではないでしょうか？　褒めて欲しい、慰めて欲しいと思って親の側に行ったのに、全く逆の対応をされてしまった。このようなことが、少しずつ積み重なることで、子どもの心が閉ざされてしまうことがあります。

　「どうせ私の事なんて分かってくれないし」という言葉は「もっと私の事を分かって欲しい」という気持ちの裏返しだと思います。大人も子供も忙しい日々ですが、子どもの心を感じ取り、共に喜んだり悲しんだりと、子どもを受け止める心の余裕が必要だと思います。

　ここで、谷川俊太郎さんの詩「あわてなさんな」を紹介します。

「あわてなさんな」　　谷川俊太郎

花をあげようと父親は云う
種子が欲しいんだと息子は呟く
翼をあげるわと母親は云う
空が要るんだと息子は目を伏せる

道を覚えろと父親が云う
地図は要らないと息子がいなす
夢を見ないでと母親が云う
目をさませよと息子がかみつく

不幸にしないでと母親は泣く
どうする気だと父親が叫ぶ
あわてなさんなと息子は笑う
父親の若い頃そっくりの笑顔で

　大人が子供を見るとき、どうしても大人目線で見てしまいます。そのため、失敗せずに最短距離で成功をつかめるように、先回りをしてあれこれ手を出してしまいます。でも、子供は、花（成功）をもらうより種子（可能性）をもらったほうが、嬉しいのではないでしょうか。種子を手間暇かけて世話をし、自らの手で芽吹かせ、花を咲かせる喜びを知る。谷川俊太郎さんの詩、「あわてなさんな」は、「子供の可能性を信じて成長を待つ大切さ」を教えてくれているような気がします。成長に失敗は付きものです。時には、じっと我慢して見守ることも必要だと思います。

■里山学習の様子１（１年生）

　１年生は「総合的な学習の時間」に西谷地区と宝塚市の歴史や自然、文化について学習を進めています。その取り組みの一つとして、兵庫県農林水産部治山課から井上裕司さん、西谷里山活用実行委員会・山もり山里から関岡裕史さん、中嶋静香さん、仲清人さんをお招きして講話をしていただきました。

　まずは、井上さんから「君たちはどう生きるか～ＹＯＵは、どうして里山へ、西谷へ？」と題して、お話をしていただきました。井上さんは、小学生時代に丹沢のブナ森で出会った鹿に心を打たれたことがきっかけで、大学へ進学して鹿の勉強をすることになったそうです。大学４年生で書いた論文がコンクールで最優秀賞となり、林野庁長官から表彰されました。大学卒業後はＪＩＣＡ（国際協力機構）のボランティアとしてパナマ共和国の国立公園で生態調査に携わってこられました。

井上さんからの講話「君たちはどう生きるのか」

帰国後は、森や動物に関わる仕事がしたいという夢を抱いて、兵庫県の公務員採用試験にチャレンジして、現在の職に就かれたそうです。一頭の鹿との出会いがきっかけで、世界で活躍し、さらに夢を実現することに繋がったことに、生徒たちは大きくうなずきながら聞き入っていました。

　続いて、中嶋さんと仲さんからは「かつての里山の暮らしと今、そしてこれから‥」と題して、西谷で暮らす人々の生活と里山の関係、人の手入れが行き届かなくなり荒廃した里山、貴重な資源である里山を守るために地域の人々が立ち上がったことなどお話しいただきました。最後に、関岡さんから、里山の整備作業で使う道具の使い方や安全を確保するための知識について説明をしていただきました。

　３人の講師のみなさんから貴重なお話を聞かせていただき、西谷の自然環境の素晴らしさや、今暮らしている西谷の地、里山を守るために自分たちは何ができるのかを考えるきっかけになったことと思います。（９月４日）

背負子で薪を背負いました

鋸の使い方について説明を受けました

■書道パフォーマンスの取組み（３年生）

夏休みに書道パフォーマンス実行委員を中心に、書く文字の内容や音楽、振り付けなどの原案を考えてくれました。その内容を基に、クラスの仲間と相談しながら細かな修正や調整を行っています。少しずつパフォーマンスの構想が現実のものとなってきました。何よりも、クラスの皆が輪になって笑顔で相談する姿は「素敵な青春の一コマ」ですね。（９月４日）

Ａチーム

Ｂチーム

足立有里さんの指導を受けました

書道パフォーマンスの原案を書家の鈴木暁昇さんに見ていただき、足立有里さん（満福寺）を通してアドバイスしていただきました。また、実際に書く文字のお手本を目の前で書いていただきました。生徒はみな、足立さんの筆使いに引付けられるように見入っていました。次回は、このお手本を基に、各自が筆を使って書く練習を指導していただきます。（９月９日）

■トライやる・ウィークの一コマ（２年生）

２年生の生徒から「自然の中でカレーを作ろう」と書かれたイベントの案内を頂きました。会場の「西谷自然の家」を見に行くと、Ａさん・Ｂさん・Ｃさんがイベントのリーダーとして小学生の子どもたちと一緒にカレーを作っていました。３人の話によると野菜の苦手な子どもでも野菜に慣れて欲しいという思いで、夏野菜たっぷりのカレーを作ってみんなで食べるイベントを企画したそうです。また、イベントのチラシや看板も３人で可愛く仕上げました。

出来上がったカレーと飯盒で炊き上げたご飯をいただきましたが、とても美味しく野菜の旨味が味わえるカレーでした。ご飯もとても上手に炊けていて美味しくいただきました。参加した小学生とその家族の皆さんからも「美味しかった！！」の声があがっていました。自然の中でいきいきと活動する３人はとても素敵な笑顔でした。（９月１４日）

可愛い看板を描きました

水がとても冷たくて最高

暑さに負けず具材を混ぜます

カレーのルーを入れます

ついにできました

参加いただいた皆で記念撮影